

遡り調査とは

- 「遡り調査」の位置づけ（がん登録推進法6条、法14条、法16条）

- ✓ **任意の「調査」ではない。**

死亡者情報票に端を発した、**届出漏れの可能性の指摘**と位置づけられ、
「遡り調査票」は届出票と同義。

- ✓ 病院等は、診療情報等の検索を行い、届出対象となる症例を確認した場合には、**法6条に基づいて届出義務を果たす。**

（国がん資料 2024年遡り調査について（医療機関用）2頁より抜粋）

※ 遡り調査は、必ず回答をしてください。

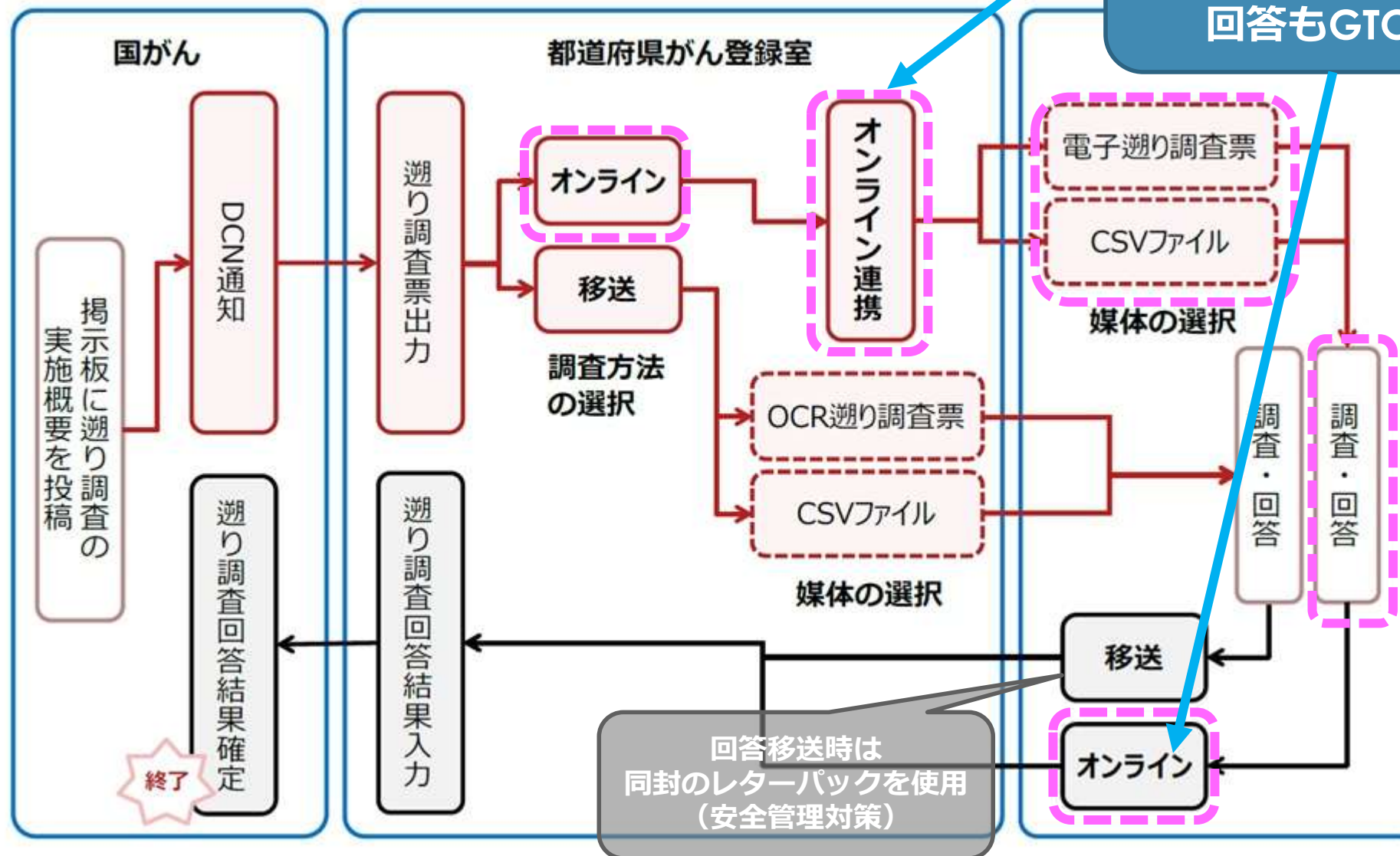
（未回答施設は、施設名を公表することができます（法7条））

内容一覧

スライド No.	内容	備考
3	フローチャート	
4-6	「区分」の説明	
7-13	GTOL回答 方法	がん登録オンライン（GTOL）マニュアル 7章参照
14-17	OCR(紙)回答 方法	
18	よくある質問	
19-24	資料	以下の項目（<u>記載ミスが多い項目</u>）についての資料 ⑧側性、⑩病理診断、⑫治療施設、⑭診断日、 ⑯⑰進行度、⑱～㉕初回治療 ※各項目詳細は 「全国がん登録 届出マニュアル2026」参照 → https://www.mhlw.go.jp/content/001728039.pdf



遡り調査フローチャート



- 医療機関の長への依頼状などは従来通り郵送あり。
- 調査票の郵送は GTOL未導入施設のみ です。

死亡診断書のがんについて 区分「1」、「2」

・区分「1」：通常回答

調査票に記載されたがんの診断をしたが、
届出が漏れていた場合（経過観察を含む）

- ✓ 調査票の情報がより詳細に「修正」される場合、「1」で回答。

例1：肺、NOS（C34.9）→ 肺上葉（C34.1）

例2：新生物、悪性（80003/9）→ 腺癌、NOS（814039）

**区分「1」「2」は、
②診療録番号以降すべての項目記入が必要。**

項目の定義は通常の届出票と同じ。

（参照：全国がん登録 届出マニュアル2026）

・区分「2」：死亡診断書に記載のがんは 調査票の内容とは異なる

当該患者のがんの診断をしたが、
調査票の原発部位・病理診断等が異なる

- ✓ GTOL 該当箇所を修正入力
- ✓ OCR(紙) 該当箇所の印字を**線で消し修正**
例3：腎、NOS（C649）→ 胃、NOS（C169）
例4：扁平上皮癌、NOS（80703）→ 腺癌、NOS（81403）

全国がん登録遡り調査票		複写禁止	0F0000000000
死亡診断書に記載のがんに関する情報の追加・修正届出		F000-0000000000	事務局使用欄 ☐ 7.既登録等
死亡診断書のがんについて	☐ 1.通常回答 ☒ 2.死亡診断書に記載のがんは調査票の内容とは異なる⇒死亡診断書に記載のがんを以下の調査票に記入 下記に該当する場合、以下の調査票の記入は必要ありません ☐ 3.死体検案 ☐ 4.死亡診断書には調査対象のがんの記載なし ☐ 5.調査対象者の該当なし ☐ 6.調査対象腫瘍の詳細診療情報なし（主たる診断・治療病院名：）		
	⑧側性 ☐ 1.右 ☐ 1.左 ☐ 3.両側 ☐ 7.側性なし ☐ 9.不明		
	⑨原発部位 肺 肝		
	⑩病理診断 新生物、悪性 肝細胞癌		

OCR修正例

死亡診断書のがんについて 区分「3」～「6」

- ・ 区分「3」：死体検案

死体検案を行ったのみで、がん診療詳細情報がない場合

- ・ 区分「4」：死亡診断書には調査対象のがんの記載なし

死亡診断書にがんの記載自体がない、もしくはがんの疑いだった場合

- ・ 区分「5」：調査対象者の該当無し

自施設に調査対象者が存在しない場合

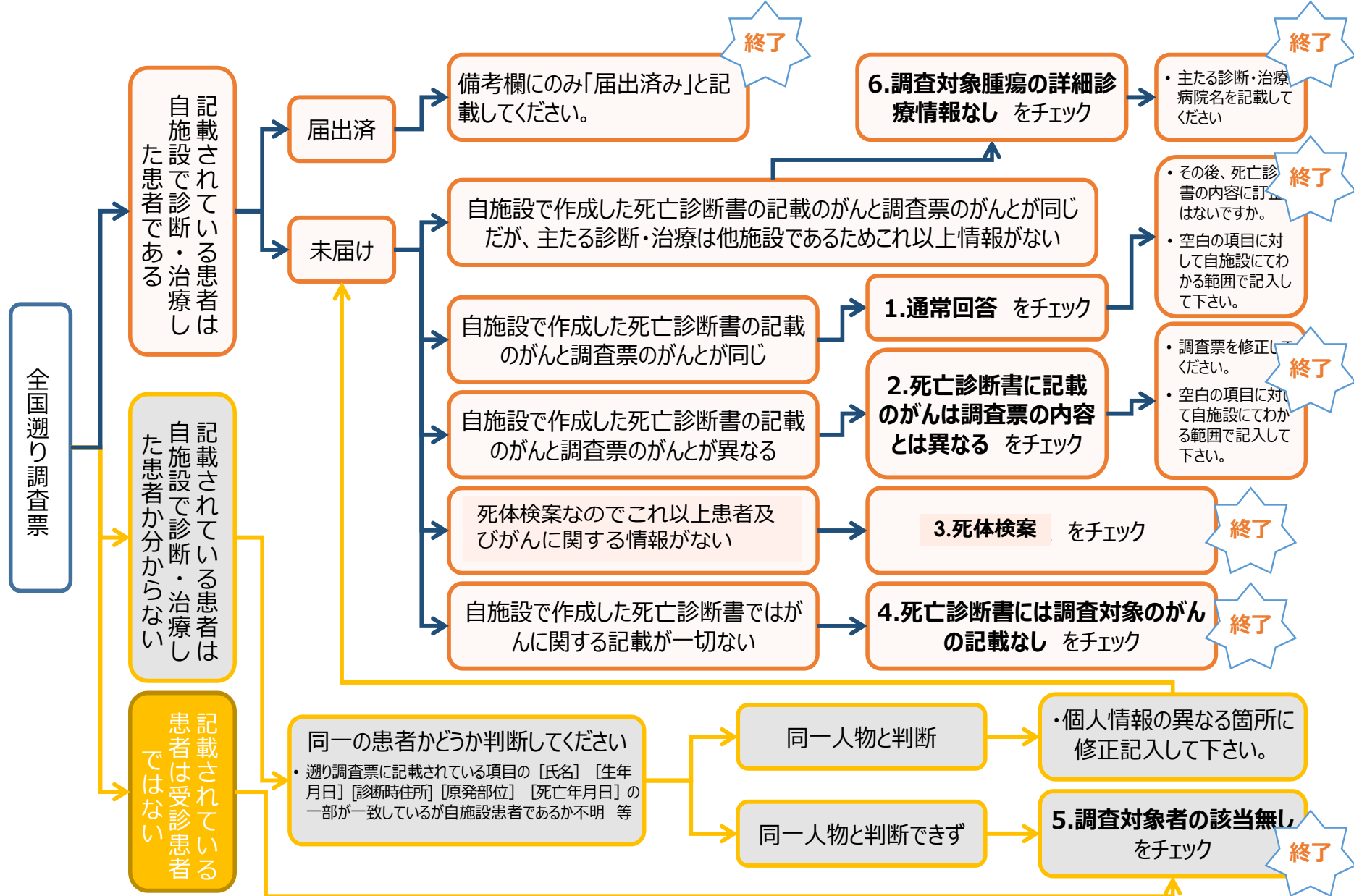
※ 外国籍の人の場合、日本名などで受診され名前が異なっていることがあるので注意。

※ 日本名が分かった場合は備考欄へ記載。

- ・ 区分「6」：調査対象腫瘍の詳細診療情報なし

死亡診断書を作成しがんの名称を記入をしたが、
診断・治療病院ではないため情報がない場合。

死亡診断書のがんについて 記載方法 フローチャート



遡り調査 GTOL回答 ～準備～

- 利用者ID、パスワードを用意

- 利用者ID不明

(GTOLマニュアル 9.3.2参照)

- ✓ 貴院の届出責任者に確認。
- ✓ 届出責任者の利用者IDも不明
→愛知県がん登録室へ問合せ

- パスワード不明

(GTOLマニュアル 9.3.3参照)

- メールアドレス不明

(GTOLマニュアル 9.3.4参照)

- GTOL 更新確認

- 2026.4.1 新機能追加

- 左メニューに「コミュニケーションツール」表示がなければ、更新必要



GTOL証明書更新手順 (Windows11版)
(2026/3/31 Update)

https://ganjoho.jp/med_pro/cancer_control/can_reg/registration_hospital/e-rep/online/pdf/gtplcertificate_win.pdf

※ 2026/2以前のVPN接続ツールはアンインストールが必要です。

遡り調査 GTOL回答 (GTOLマニュアル 7章参照)

• Webフォームで実施

1. 遡り調査実施案内 (7.2)
2. GTOLへの接続 (7.3)
3. 遡り調査票の入力 (7.4)
4. 届出状況の確認 (7.6)
5. 調査完了

Webフォームで実施を推奨
直接入力・CSV いずれも可能

• PDF (電子届出票) で実施

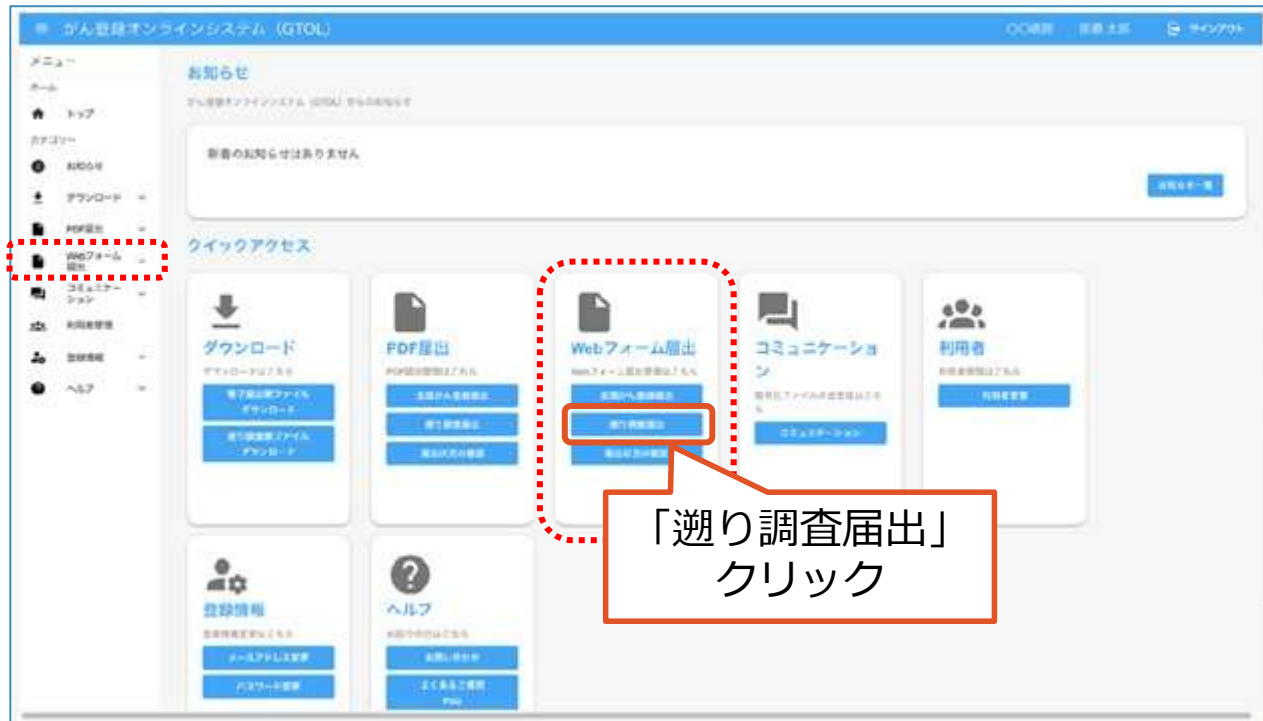
1. 遡り調査実施案内 (7.2)
2. GTOLへの接続 (7.3)
3. 遡り調査票ファイルのダウンロード (7.5.1)
4. 作成済み遡り調査票ファイルのアップロード (7.5.2)
5. 届出状況の確認 (7.6)
6. 調査完了

※ 電子遡り調査票ファイル(PDF)での回答は、今年度限りで終了し、次年度からはWebフォームのみとなります。

[遡り調査](#)
[GTOL回答](#)
[Webフォーム・直接入力](#)

- GTOLマニュアル 7.4.1~7.4.5参照

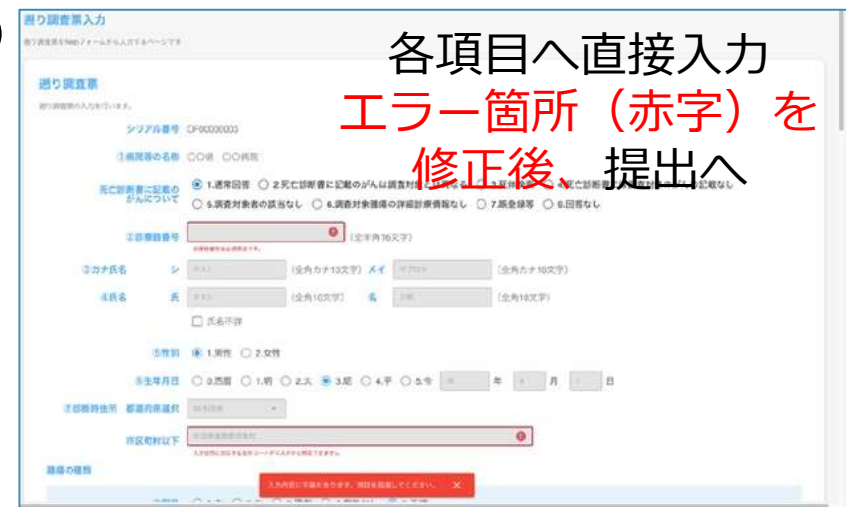
①



②



③



遡り調査 GTOL回答 Webフォーム・CSV

- GTOLマニュアル 7.4.6参照

遡り調査票一覧

遡り調査票の一覧を閲覧・管理するページです。

都道府県 ○○県

病院・診療所 ○○病院

死亡調査年 2024年

ステータス ☐ 未入力 ☐ 入力中 ☐ 入力完了 ☐ 提出完了

🔍 検索

↑

アップロードする暗号化ファイル（.p7m）をドラッグ&ドロップしてください。

またはファイルを選択

入力完了のみ選択

📄 提出が完了していないデータを一括入力用CSVとしてダウンロード

選択した入力完了の票を提出（0件）

☐	ステータス	シリアル番号	病院名称 診療科番号	居住コード	票号	最終更新
☐	編集 初回化 入力中	0F00000020	○○病院	C1E.9		医務 太郎 2025/03/23 17:22:34
☐	編集 初回化 入力中	0F00000019	○○病院	C5C.9		医務 太郎 2025/03/23 17:22:33
						医務 太郎

- [提出が完了していないデータを一括入力用CSVとしてダウンロード] をクリック
- DLファイルを、GUIツールで複合化
- 復号したCSVファイルに、調査票データを入力
- 入力したCSVファイルを、GUIツールで暗号化（.p7m形式）
- アップロード

- ※1 CSVファイル名は変更しない
（アップロード不可になります）
- ※2 データの並び替えをしない！
（並び替えをした場合、
DLからやり直しが必要です）

GTOL回答 入力例 (国からの資料 p.5へ追記 1)

個人情報
(③氏名～⑦診断時住所)
 に修正あれば、
上書きしてください。

局在・病理診断変更
 (区分2)の場合、

大分類→詳細分類
の順で選択

詳細分類のみ選択は不可

死亡者情報票の原死
 因以上の情報がなけ
 れば、そのまま。

「死亡診断書のがんについて」の区分を
 選択し、必要な項目を記入

区分については
 スライド4～6を参照

死亡者情報票の原死因に
 付された ICD-O コードが
 表示される。

プルダウンメニューで選択した
 腫瘍に対して ICD-O コードが
 自動付与される。

遡り調査票

遡り調査票の入力を行います。

シリアル番号 FB00000100

①病院等の名称 ☐ 県 ☐ 病院

死亡診断書に記載のがんについて
☒ 1.通常回答 ☐ 2.死亡診断書に記載のがんは調査対象とは異なる ☐ 3.死体検案
☐ 4.死亡診断書には調査対象のがんの記載なし ☐ 5.調査対象者の該当なし ☐ 6.調査対象腫瘍の詳細診療情報なし

*選択肢を変更しても、入力済みの情報はクリアされません。不要な場合は手動で削除してください。

②診療録番号 11111111110 (全半角10文字)

③カナ氏名 シ テスト (全角カナ10文字) メイ タロウ (全角カナ10文字)

④氏名 氏 試験 (全角10文字) 名 太郎 (全角10文字)

☐ 氏名不詳

⑤性別 ☒ 1.男性 ☐ 2.女性

⑥生年月日 ☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☒ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 25 年 12 月 13 日

⑦診断時住所 都道府県選択 13.東京都

市区町村以下 テスト市テスト1丁目

例) ☐ 0.1丁目1-1
 *全国がん登録システムの住所定義で機械的にチェックしているため、正しい住所でも表記揺れなどの原因で警告になる場合があります。警告状態でも提出は可能なため、入力した住所に誤りがないかご確認をお願いします。

⑧側性 ☒ 1.右 ☐ 2.左 ☐ 3.両側 ☐ 7.側性なし ☐ 9.不明

大分類 肺・気管

詳細分類 C34.9: 肺の2部位以上広範囲又は詳細部位不明

⑩病理診断 組織型・性状 6149/3: 肺癌 (AISを含む)

診断情報

⑪診断施設 ☒ 1.自施設診断 ☐ 2.他施設診断

GTOL回答 入力例 つづき (国からの資料 p.5へ追記2)

⑭ 診断日

- ・⑪が **1.自施設診断**
→ 「がん」と診断する根拠となる
検査を実施した日
- ・⑪が **2.他施設診断**
→ **自施設の初受診（来院）日**

⑫治療施設が「1」「4」
(自施設で初回治療なし)

- ・⑮,⑯,⑰,⑲～⑳は全て
「2.自施設で施行なし」
- ・㉑ 観血的治療範囲は
「6.観血的治療なし」

⑩ 原発部位

⑪ 診断日時

⑫ 治療施設、1, 4

⑬ 進展度・術後病理学的「660.手術なし」

⑭ 死亡者情報票の原死因に付された原発部位及び病理診断のテキストが表示されます。

※ 備考に追記する場合、**入力済みテキスト部分を消さず、その後続けて入力してください**

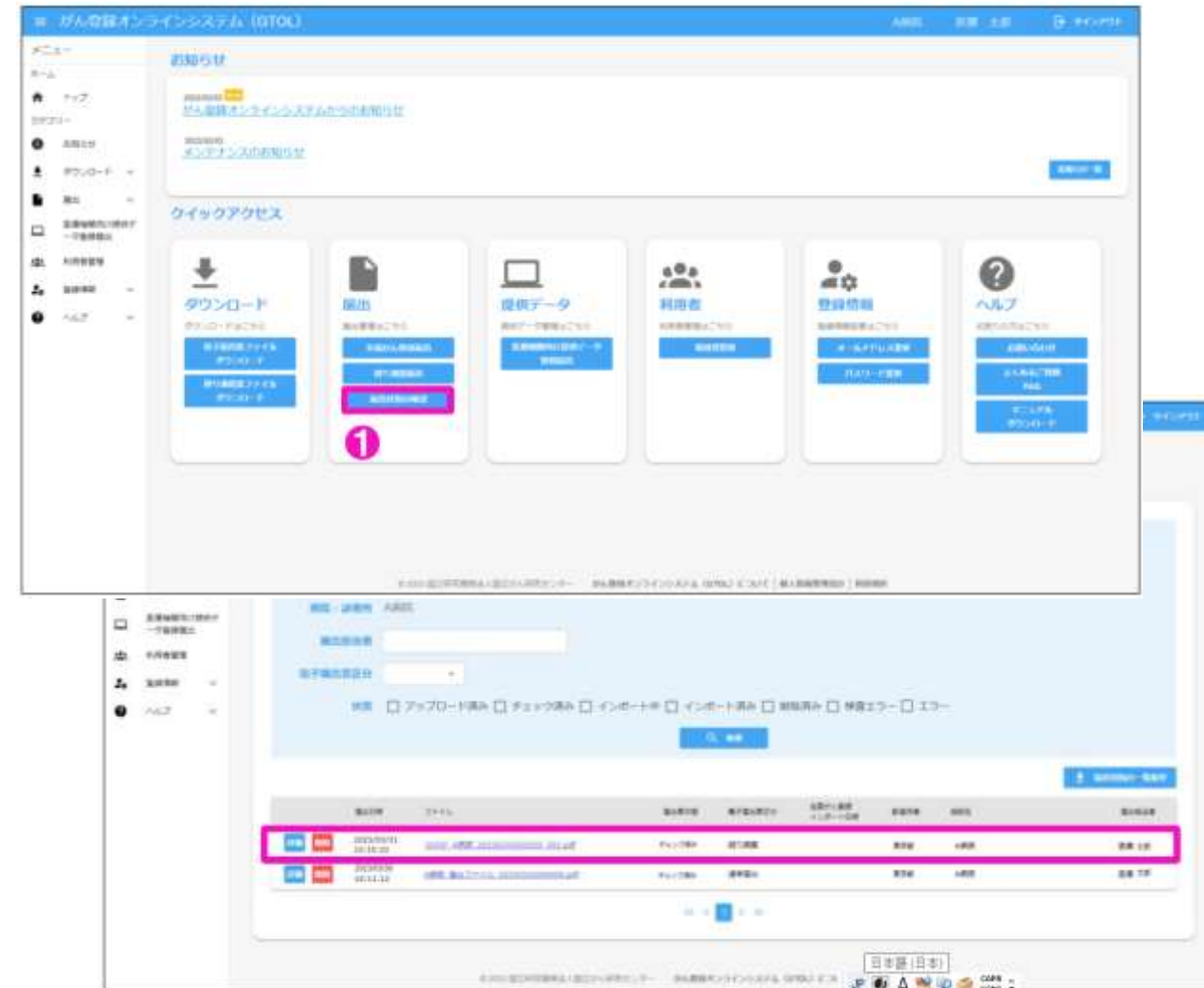
⑮ 削除しない!!

⑯ 病院で治療後、来院。

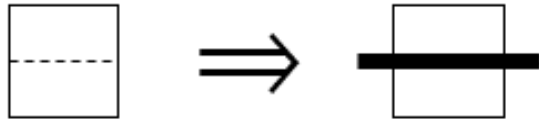
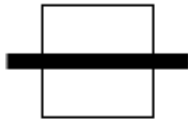
遡り調査 GTOL回答 PDF（電子届出票使用）

- ✓ Webフォームと比較して
作業が多く、お勧めしません。
- ✓ 提出の数時間後に、
届出状況の確認が必要
- ✓ 詳細は、
GTOLマニュアル 7.5参照

※ 電子届出票は
今年末に廃止予定



OCR読み取り調査票（紙） 回答 注意点

- 回答は、お送りした**原本を返送**してください。
- 筆記用具は**太い黒のペン**が読み取りが良い。
（鉛筆、フリクションペン等、消える可能性のあるものは使用不可）
- チェックの仕方（突き抜けてかまわない）  $\Rightarrow$ 
- 間違えたときは修正ペン使用、もしくは二重線で消し余白に正しい回答記載。

※ 調査票には個人情報が含まれます。安全管理を徹底してください。

OCR回答 記入例

- ・ 1～6の区分のうち、該当するものを選択。
- ・ 区分「1」「2」は、②以下の全項目記入必要。
- ・ 区分「2」を選択した場合、
死亡診断書に記載のがんに修正し、
そのがん診療にかかわる全項目を記入。

全国がん登録遡り調査票

死亡診断書に記載のがんに関する情報の追記・修正欄

☐ 1. 通常回答
☒ 2. 死亡診断書に記載のがんは調査票の内容とは異なる
 下記に該当する場合、以下の調査票の記入は必要ありません
☐ 3. 死亡検案 ☐ 4. 死亡診断書には調査対象のがんの記載なし ☐ 5. 調査対象者の該当なし
☐ 6. 調査対象腫瘍の詳細診療情報なし(主たる診断・治療病院名:)

①病院等の名称 いるか市民病院

②診療録番号 1 3 3 4 3 ※病院コード(事務局使用欄)

③カナ氏名 アイチ ハナコ

④氏名 氏 愛知 名 花子 華子

⑤性別 女 ⑥生年月日 1945/5/8

⑦診断時住所 名古屋千種区鹿子殿 中区三の丸1-1

⑧側性 ☐ 1. 右 ☒ 2. 左 ☐ 3. 両側 ☐ 7. 側性なし ☐ 9. 不明

⑨原発部位 乳房上外側4分の1内側 ※コード(事務局使用欄) C 5 0 4

⑩病理診断 浸潤性導管癌, NOS (C50.2) ※コード(事務局使用欄) 8 5 0 0 3 1

⑪診断施設 ☒ 1. 自施設診断 ☐ 2. 他施設診断

③④氏名～
⑦診断時住所
が違う場合、
見え消しで記入

⑧側性 **入力ミス多発**
⑨原発部位から
「あり(1,2,9)」か
「なし(7)」を
必ず確認!!

⑨原発部位
間違っていたら
修正

コードは
登録室で
記入

☆ 自施設で初回治療を行った場合（⑫治療施設「2」）

診断情報	⑫治療施設	☐ 1. 自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明 ☒ 2. 自施設で初回治療を開始 ☐ 3. 他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続 ☐ 4. 他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診 ☐ 8. その他		
	⑬診断根拠	☒ 1. 原発巣の組織診 ☐ 2. 転移巣の組織診 ☐ 3. 細胞診 ☒ 4. 部位特異的腫瘍マーカー ☐ 5. 臨床検査 ☐ 6. 臨床診断 ☐ 9. 不明		
進行度	⑭診断日	☐ 0. 西暦 2019年07月15日		
	⑮発見経緯	☒ 1. がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例 ☐ 3. 他疾患の経過観察 ☐ 4. 剖検発見 ☐ 8. その他 ☐ 9. 不明		
初回治療	⑯進展度・治療前	☐ 400. 上皮内 ☐ 410. 限局 ☐ 420. 領域リンパ節転移 ☐ 440. 遠隔転移 ☐ 777. 該当せず ☐ 499. 不明		
	⑯進展後・後術・病理学的	☐ 400. 上皮内 ☐ 410. 限局 ☐ 420. 領域リンパ節転移 ☐ 440. 遠隔転移 ☐ 660. 手術なし・術前治療後 ☐ 777. 該当せず		
初回治療	⑱外科的	☒ 1. 自施設で施行 ☐ 2. 自施設で施行なし ☐ 9. 施行の有無不明		
	⑲鏡視下	☐ 1. 自施設で施行 ☒ 2. 自施設で施行なし ☐ 9. 施行の有無不明		
	⑲内視鏡的	☐ 1. 自施設で施行 ☒ 2. 自施設で施行なし ☐ 9. 施行の有無不明		
	⑲観血的治療の範囲	☒ 1. 腫瘍遺残なし ☐ 4. 腫瘍遺残あり ☐ 6. 観血的治療なし		
	⑲放射線療法	☐ 1. 自施設で施行 ☒ 2. 自施設で施行なし ☐ 9. 施行の有無不明		
	⑲化学療法	☒ 1. 自施設で施行 ☐ 2. 自施設で施行なし ☐ 9. 施行の有無不明		
初回治療	⑲内分泌療法	☐ 1. 自施設で施行 ☒ 2. 自施設で施行なし ☐ 9. 施行の有無不明		
	⑲その他治療	☐ 1. 自施設で施行 ☒ 2. 自施設で施行なし ☐ 9. 施行の有無不明		
	⑳死亡日	2024/3/22		
備考		〇〇病院で診断		

⑫治療施設「8：その他」は
死体解剖で初めて診断された場合のみ
判断に迷う場合は備考欄に経緯を記載

⑭ 診断日

・⑪診断施設「1.自施設診断」
→ 「がん」と診断する根拠となる
検査を実施した日。

・⑪診断施設「2.他施設診断」
→ 自施設の初回受診（来院）日
（※他施設の診断日ではない!!）

☆ 自施設で初回治療を行わなかった場合（⑫治療施設「1」「4」）

詳細不明ならば
⑬診断根拠
⑮発見経緯
⑯進展度・治療前
↓
「不明」へ

⑯⑰進行度
「777.該当せず」は
血液腫瘍のみ該当

⑫治療施設	☐ 1. 自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明	☐ 2. 自施設で初回治療を開始	☐ 3. 他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続	☒ 4. 他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診	☐ 8. その他
⑬診断根拠	☐ 1. 原発巣の組織診	☐ 2. 転移巣の組織診	☐ 3. 細胞診	☐ 6. 臨床診断	☒ 9. 不明
	☐ 4. 部位特異的腫瘍マーカー	☐ 5. 臨床検査			
⑭診断日	☐ 0. 西暦 ☐ 4. 平成 2018年08月13日				
⑮発見経緯	☐ 1. がん検診	人間ドックでの発見例		☐ 3. 他疾患の経過観察中の偶然発見	
	☐ 4. 剖検発見	☐ 8. その他	☒ 9. 不明		
⑯進展度・治療前	☐ 400. 上皮内	☐ 410. 限局	☐ 420. 領域リンパ節転移		
	☐ 440. 遠隔転移	☐ 777. 該当せず	☒ 499. 不明		
⑰進展後・術後病理学的	☐ 400. 上皮内	☐ 410. 限局	☐ 420. 領域リンパ節転移	☐ 430. 隣接臓器浸潤	
	☐ 440. 遠隔転移	☒ 660. 手術なし・術前治療後	☐ 777. 該当せず	☐ 499. 不明	
初回治療	⑱外科的	☐ 1. 自施設で施行	☒ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明	
	⑲鏡視下	☐ 1. 自施設で施行	☒ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明	
	⑳内視鏡的	☐ 1. 自施設で施行	☒ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明	
	㉑観血的治療の範囲	☐ 1. 腫瘍遺残なし	☐ 4. 腫瘍遺残あり	☒ 6. 観血的治療なし	☐ 9. 不明
	㉒放射線療法	☐ 1. 自施設で施行	☒ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明	
	㉓化学療法	☐ 1. 自施設で施行	☒ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明	
	㉔内分泌療法	☐ 1. 自施設で施行	☒ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明	
	㉕その他治療	☐ 1. 自施設で施行	☒ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明	
㉖死亡日	2024/9/25		備考	△△病院で治療、当院で緩和ケア	

⑰ 進展度・術後病理学的
「660.手術なし・術後治療後」

・初回治療
⑱,⑲,⑳,㉒～㉕は全て
「2.自施設で施行なし」
㉑ 観血的治療範囲は
「6.観血的治療なし」

※他施設の治療内容を
記入しない!!

よくある質問 ～遡り調査～

- **遡り調査票は1枚しか届いていないが、その症例が多重がんであった場合どうすればよいか？**
 - ・ 記載されていない腫瘍は、新規に届け出て下さい。
- **性別、生年月日、原発部位は一致するが、氏名や住所が異なる場合はどうするか**
 - ・ 遡り調査票には、死亡票より得られた情報を印字しており、氏名や住所が異なる場合は、結婚などで「改姓」や「外国人国籍」、「転居」などの可能性が考えられます。
 - ・ 貴院で同一人物であるか 否かを確認・判断していただき、同一の方であれば貴院で把握されている氏名や住所を（ ）書きで氏名欄又は診断時住所欄に記入して下さい。
- **他施設に問い合わせる等して、すべて記入しなければいけないか**
 - ・ 貴院でわかる範囲で全て記入して下さい。
- **がんの既往はあるが、自院では診断・治療を行っていない。遡り調査票を届出しなければならぬか？**
 - ・ 主たる診断・治療をした病院がわかればご記入の上、届出して下さい。
 - ・ わからなければ「6」にチェックを入れるだけで結構です。

⑧ 側性 ～ 側性のある臓器一覧

局在コード	局在名	局在コード	局在名	局在コード	局在名
C07.9	耳下腺	C40.0	肩甲骨及び上肢の長骨	C49.1	上肢・肩の軟部組織
C08.0	顎下腺	C40.1	上肢の短骨	C49.2	下肢・股関節部の軟部組織
C08.1	舌下腺	C40.2	下肢の長骨	C50.0-C50.9	乳房
C09.0	扁桃窩	C40.3	下肢の短骨	C56.9	卵巣
C09.1	扁桃口蓋弓（前・後）	C41.3	肋骨・胸骨及び鎖骨	C57.0	卵管
C09.8	扁桃の境界部病巣	C41.4	骨盤骨、仙骨、および尾骨	C62.0-C62.9	精巣
C09.9	扁桃、部位不明	C44.1	眼瞼の皮膚、眼角を含む	C63.0	精巣上体
C30.0	鼻腔	C44.2	耳、および外耳道の皮膚	C63.1	精索
C30.1	中耳	C44.3	その他の部位不明の顔面の皮膚	C64.9	腎盂を除く腎
C31.0	上顎洞	C44.5	体幹の皮膚	C65.9	腎盂
C31.2	前頭洞	C44.6	上肢の皮膚、肩を含む	C66.9	尿管
C34.0	主気管支	C44.7	下肢の皮膚、股関節部を含む	C69.0-C69.9	眼球・涙腺
C34.1-C34.9	肺	C47.1	上肢の末梢神経、肩を含む	C74.0-C74.9	副腎
C38.4	胸膜	C47.2	下肢の末梢神経、股関節部を含む	C75.4	頸動脈小体

*1 上記局在で「7.側性なし」を選択した場合はエラー

*2 側性：3（両側）は、卵巣以外は原則使用不可

⑩ 病理診断 と ⑬診断根拠（届出マニュアル p.39）

⑬診断根拠が、
顕微鏡的（病理学的）診断ではない



**診断根拠が、4～9の場合
形態コードは右表から選択**

例）他施設診断で、肺癌。
情報提供書には「腺癌」と記載があるが
診断根拠は不明。



⑩病理診断：8000（悪性新生物）、

⑬診断根拠：9（不明）

備考に「〇〇病院「腺癌」と診断」と入力。

腫瘍情報 診断根拠が顕微鏡的（病理学的）診断でない時に用いてよい形態コード			
形態コード	組織診断名	形態コード	組織診断名
8000	新生物・腫瘍, NOS※1	9350	頭蓋咽頭腫
8150	膵内分泌腫瘍	9380	グリオーマ
8151	インスリノーマ	9384/1	上皮下巨細胞性アストロサイトーマ
8152	腸グルカゴン腫瘍	9500	神経芽腫（神経芽細胞腫）
8153	ガストリノーマ	9510	網膜芽腫（網膜芽細胞腫）
8154	膵内分泌・外分泌細胞混合腫瘍	9530	髄膜腫, NOS
8160/3	胆管細胞癌※2	9531	髄膜皮性髄膜腫
8170	肝細胞癌	9532	線維性髄膜腫
8270	嫌色素性腺腫/癌（下垂体腫瘍）	9533	砂粒腫性髄膜腫
8271	プロラクチノーマ（下垂体腫瘍）	9534	血管腫性髄膜腫
8272	下垂体腺腫/癌, NOS	9535	血管芽腫性髄膜腫
8280	好酸性腺腫/癌（下垂体腫瘍）	9537	移行型髄膜腫
8281	好酸性・好塩基性混合腺腫/癌（下垂体腫瘍）	9538	明細胞髄膜腫/乳頭状髄膜腫
8720	黒色腫（眼又は皮膚に原発の場合）	9539	異型髄膜腫
8800	肉腫, NOS	9590	リンパ腫
8960	腎芽腫	9732	多発性骨髄腫
9100	絨毛癌	9761	ワルデンストレームマクログロブリン血症
9140	カボジ肉腫	9800	白血病, NOS

※1 NOS Not Otherwise Specified 他に何らの説明や記載のないもの、詳細不明

※2 日本独自ルール

⑫ 治療施設

- 当該腫瘍の初回治療を、どの施設で開始、実施したか。
 ※ がんの縮小・切除を意図した治療が行われなかった場合、経過観察を初回治療とする。

⑫ 治療施設

- ☐ 1. 自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明
- ☒ 2. 自施設で初回治療を開始（経過観察の決定、初回実行を含む）
- ☐ 3. 他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続
- ☐ 4. 他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診
- ☐ 8. その他

「8. その他」は
死体解剖で初めて
診断された場合のみ

※ 詳細不明には
用いない

【例 1】 自施設診断だが経過観察のみまたは緩和ケアでがんの積極的治療なし。
 ⇒治療施設は「2」

【例 2】 他施設で診断され緩和目的で受診。⇒治療施設は「4」

⑭ 診断日

- 当該腫瘍の初回治療前の診断のために行った検査のうち、
「がん」と診断する根拠となった検査を行った日。

- ・「1. 自施設診断」→ **自施設診断日**

自施設受診後に実施され、「がん」と診断された検査のうち、
最も確からしい検査が行われた日。

(複数回行われている場合、より早い日に行われた検査の実施日)

病理検査
結果報告日
ではない

- ・「2. **他施設診断**」→当該腫瘍初診日

当該腫瘍の診断や治療のために**初めて患者が自施設を受診した日。**

①⑥ ①⑦ 進行度

①⑥ 進展度・治療前

400	上皮内
410	限局
420	領域リンパ節転移
430	隣接臓器浸潤
440	遠隔転移
777	該当せず
499	不明

他施設診断で、
初回治療前の進展度の記載なし
→ 「499：不明」

①⑦ 進展度・術後病理学的

400	上皮内
410	限局
420	領域リンパ節転移
430	隣接臓器浸潤
440	遠隔転移
660	手術なし または術前治療後
777	該当せず
499	不明

自施設で
観血的初回治療なし
(①⑧～①⑩が「2」)



①⑦ 進展度 「660」
(血液腫瘍以外)

× 「499：不明」では
ありません。

※ ①⑥ ①⑦ 「777. 該当せず」は以下の場合のみ

→ 白血病・多発性骨髄腫

(⑨原発部位；C42.0 (血液)、C42.1 (骨髄))

⑮～⑳ 初回治療

自施設で行われた、初回時の**当該がんの縮小・切除を意図した治療**

※ 他施設の初回治療 ≠ 「1：自施設で施行」

	該当例	非該当例
⑮外科的治療	・〇〇切除術 など	・人工肛門造設 ・胃腸バイパス術
⑯鏡視下治療	・腹(胸)腔鏡下切除術 など	
⑰内視鏡的治療	・ESD など	・ステント留置 ・ドレナージ
⑱放射線治療	・ガンマナイフ など	
㉑化学療法	・TAI（肝動注化学療法） ・分子標的薬 など	
㉒内分泌治療	・甲状腺がんチラージン投与 （TSH 抑制目的）	・甲状腺がんチラージン投与 （甲状腺ホルモン補充目的）
㉓その他治療	・血栓塞栓術、・レーザー療法 ・エタノール注入療法 など ・イミキモドクリーム（ボウエン病）	・緩和治療 ・輸血、輸液、瀉血